

第90回 憲法を考える映画の会

新・戦場の兵士

藤本幸久・影山あさ子共同監督作品

長編ドキュメンタリー映画

新・戦場の兵士

2025年/103分/森の映画社



中国と沖縄の二つの戦場で戦った
元日本軍兵士 近藤一さん



アレン・ネルソンさん



自衛隊に入る沖縄の青年たち
自衛官候補生入隊式



ベトナム戦争で戦った
ジェフ・バターソンさん

2026年 10月18日 (日)
13時30分～16時30分

文京区民センター 3A会議室

(地下鉄 春日駅 2分・後樂園駅 5分)

■プログラム

13:30～13:35 今回の作品についての紹介

13:35～15:20 映画『新・戦場の兵士』上映 (103分)

15:30～16:30 トークシェア

佐藤博文さん(自衛官の人権弁護団 団長/弁護士)のお話

■参加費：1000円 (若者：無料)

(予約、前売りは行っておりません。参加費は会場でお支払い下さい)



『新・戦場の兵士』 はじめに

明治の時代から1945年の敗戦まで、日本は植民地拡大と戦争に明け暮れました。そしてアジア太平洋戦争では、300万人の日本人を含む2000万人が犠牲となりました。

以来80年、戦争をしないと決めたはずの日本で、「台湾有事は日本有事」という言葉と共に、今、着々と次の戦争の準備が進められています。80年前の戦争と比べても、格段に進化、強化された兵器による戦争が起これば、計り知れない被害を生むことでしょう。

いつの時代も、どの戦争でも、最前線に立たされるのは若者たちです。若者たちは、自分たちの未来をどのように選べばよいのでしょうか。

『戦場の兵士』は、日本とアメリカの兵士たちの体験を描きます。

本当の戦場とはどのようなものなのか、兵士はどのような体験をするのか。そして、兵士にはたたかう以外の選択肢はないのでしょうか。

近藤一さん、アレン・ネルソンさん、ジェフ・バターソンさん、彼らの体験の中に、未来への手がかりがあります。

彼らの声にどうぞ、耳を傾けて下さい。

「新・戦場の兵士」監督 影山あさ子
(「新・戦場の兵士」リーフレットより)

「新・戦場の兵士」2025年制作/103分
藤本幸久・影山あさ子共同監督/森の映画社制作

この映画を見て考えたいこと

「軍隊ではない」ことを建前にしてきた自衛隊も、国際法上の日本国の正規軍。武力行使を任務とする軍隊で、軍事費も軍勢力も世界のトップ10に入る。軍隊である以上、「賭命義務」、自らの命をかけて、相手を殲滅する義務が課せられる。「殺すか、殺されるか」という覚悟だが、それを自衛官に持たせることは難しい。

米軍との共同訓練などを経験し、「本当の軍隊」に目覚める隊員もいる一方で、「こんなことのために自衛隊に入ったのではない」という隊員は多い。「戦争をしない自衛隊」と多くの人が思ってきたからだ。またウクライナなどGPSや無人機を使う現代のハイブリッド戦争では、死亡率の高さが桁違いだと自衛官自身肌身で感じている。米軍のシミュレーションでは、台湾有事で兵士の犠牲は5000人とも推定されている。

米軍や旧日本軍では「最高刑は死刑、その場で銃殺も可」とされる敵前逃亡も、「軍法を持たない」自衛隊では、懲役7年。いよいよの時は「拒否しろ」と言うのは刑の軽さだけではない。国家のために、自らの命、あるいは誰かの命を犠牲にすることを許さない日本国憲法十三条があるからだ。個人よりは国家を上には考えないというのが憲法の大原則なのだ。

佐藤博文さん(自衛官の人権弁護団 団長/弁護士)

日本国憲法 第十三条 全て国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で最大の尊重を必要とする

憲法を考える映画の会（関連上映会）これまでの上映作品（2013年4月～2026年8月）

第1回 2013年4月06日 戦争をしない国 日本 第2回 2013年5月19日 八十七歳の青春 市川房枝生涯を語る 第3回 2013年6月15日 映画 日本国憲法 第4回 2013年7月06日 日本国憲法誕生 第5回 2013年8月10日 日本の青空 第6回 2013年9月14日 ヘアデの贈りもの 第7回 2013年11月02日 ショック・ドクトリン 第8回 2013年11月30日 レーン・宮沢事件 第9回 2014年1月18日 ニッポンの嘘 報道写真家 福島菊次郎90歳 第10回 2014年2月08日・3月01日 “私”を生きる 第11回 2014年4月12日 9条を抱きしめて 第12回 2014年5月24日 死んだらヒマはない 益永スミコ86歳 第1回 ちいさな映画会 2014年6月21日 ラブ沖縄 第13回 2014年7月19日 ファルージャ イラク戦争 日本人入団事件…そして 第2回 ちいさな映画会 2014年8月17日 僕たちは見た 沈黙を破る 第14回 2014年9月21日 ありふれたファシズム 野獣たちのバラード 第3回 ちいさな映画会 2014年10月4日 速報 辺野古の闘い 2014年8月 アルマジロ 第15回 2014年11月22日 ANPO あの熱かった時代の「抵抗」のアート 第4回 ちいさな映画会 2015年2月1日 スペシャリスト わが青春に悔なし 第16回 2015年3月14日 証言 侵略戦争 証言 中国人強制連行 第17回 2015年4月25日 イラク 戦場からの告発 ジャーハダ イラク戦争の闘い シリア内戦 イスラム国の正体を暴く 第18回 2015年6月13日 井上ひさし 九条を語る 加藤周一 九条を語る 女性達にとっての日本国憲法 第19回 2015年7月18日 東京裁判 第5回 ちいさな映画会 2015年8月23日 弁護士 布施辰治 天皇の名のもとに 第20回 2015年9月13日 誰も知らない基地のこと 第21回 2015年10月25日 首相官邸の前で 第22回 2015年11月28日 ハーツ・アンド・マインズ ベトナム戦争の真実 第23回 2016年1月31日 白バラの祈り ソフィー・ショル、最後の日々 第24回 2016年3月26日 グラニート 独裁者を追い詰める	第25回 憲法映画祭2016 5月01日 映画 日本国憲法 / ありふれたファシズム / ショック・ドクトリン 第26回 2016年6月26日 ザ・思いやり 第27回 2016年7月24日 ハトは泣いている 時代（とき）の肖像 第28回 2016年9月17日 焼け跡から生まれた憲法草案 第29回 2016年10月15日 NO（ノー） 第30回 2016年11月03日 わたしの自由について SEALDs 2015 第6回 ちいさな映画会 2016年12月10日 抗い ARAGAI 横浜事件を生きて 第31回 2017年1月29日 横浜事件を生きて 横浜事件 半世紀の問い 第32回 2017年2月25日 小林多喜二 第33回 2017年3月26日 武器なき闘い 第34回 憲法映画祭2017 4月29・30日 意志の勝利 / 白バラの祈り / 夜と霧 / 顔のないヒトラーたち / 戦争をしない国 日本 大東亜戦争 / 天皇と軍隊 第35回 2017年5月27日 知事抹殺の真実 第36回 2017年7月01日 テロリストは誰？ 第37回 2017年8月27日 戦ふ兵隊 日本の悲劇 第38回 2017年10月14日 隠された爪跡 払い下げられた朝鮮人 第39回 2017年12月10日 ジョン・ラーベ 南京のシンドラー 第40回 2018年1月27日 憲法を武器として 恵庭事件 50年目の真実 第41回 2018年2月25日 ザ・思いやりパート2 希望と行動 篇 第42回 憲法映画祭2018 4月29・30日 すべての政府はウソをつく / ニッポンの嘘 東京裁判 / NO / ハトは泣いている トランプのアメリカ 第43回 2018年6月3日・30日 500年 権力者を殺すのは誰か グラニート 独裁者を追い詰める 第44回 2018年8月25日 「在日」 第45回 2018年9月23日 スペシャリスト 直感を覚悟 第46回 2018年11月03日 OKINAWA 1965 第47回 2018年12月08日 南京！南京！ 第48回 2019年1月27日 わたしの描きたいこと 第50回 憲法映画祭2019 4月26日～28日 あの日の声を探して / 天皇の名のもとに / 証言 侵略戦争 / 旗の兵隊 / 陸軍前機飛行場 / 沖縄 スパイ戦史 / ありふれたファシズム / ショック ドクトリン / ベトナムから遠く離れて / 共犯者たち 第49回 2019年3月02日 天から落ちてきた男 自主制作映画見本市 #1 2019年4月30日 死んだらヒマはない / 私の描きたいこと ハトは泣いている / 隠された爪跡 / OKINAWA 1975 / 知事抹殺の真実 / フクシマ2011 第51回 2019年6月30日 沖縄から叫ぶ 戦争の時代 宮古島からのSOS	第7回 ちいさな映画会 2019年7月14日 言わねばならないこと / 遅すぎた聖断 第52回 2019年8月10日 ピカドン ひろしま 自主制作映画見本市 #2 2019年9月23日 「在日」 / 証言 中国人強制連行 / レーン・宮沢事件 / ファルージャ / シロウオ / 生きるのに理由はあるの 特別講演会 2019年10月22日 「現代天皇制の心の支配」 山田朗 先生 遅すぎた聖断 第53回 2019年10月26日 ニジノキセキ 特別上映会 2019年11月03日 靖国・地獄・天皇 遠近を抱えて PART 2 第54回 2019年12月08日 主戦場 自主制作映画見本市 #3 2020年1月13日 陸軍前機飛行場 / 靖国・地獄・天皇 憲法を武器として / 9条を抱きしめて 裁判所前の男 / 選挙が生まれる 第55回 2020年2月11日 アフガニスタン 用水路が運ぶ恵みと平和 第56回 2020年9月21日 沖縄と本土一緒に闘う ヤジと民主主義 自主制作映画見本市 #4 2020年9月26日 ヒロシマガサガサ 最後の二重爆撃者 私たちは忘れない / 二つの故郷を生きて 棘 / 人らしく生きよう / 生きるのに理由はあるの 第57回 2020年11月03日 地の塩 特別上映会 2020年11月23日 人らしく生きよう 国鉄冬物語 自主制作映画見本市 #5 2021年2月23日 天皇の名のもとに / グラニート ザ・思いやり / チェルノブイリハート 第58回 2021年3月27日 言わねばならないこと ショック・ドクトリン 第59回 憲法映画祭2021 4月17日 戦争のつくりかた / 戦争をしない国 日本 シャドー・ディール / 1987、ある闘いの真実 第60回 2021年6月06日 ハワイマレー沖海戦 ドキュメント 真珠湾攻撃 / ミッドウエー海戦 第61回 2021年8月08日 荒野に希望の灯をともし 自主制作映画見本市 #6 2021年9月26日 外国人収容所の闘い / 誰が代不起立 / 終わりの見えない闘い / 闇に消されてるものか 第62回 2021年11月21日 子どもたちの昭和史 自主制作映画見本市 #7 2021年12月26日 原発の町を巡る / ハークレー市民がつくる町 日高線と生きる / 作兵衛さんと日本を握る / いのちの海 第63回 2022年2月6日 鰯釣 自主制作映画見本市 #8 2022年3月13日 傍聴者あるいは偶然のテロリスト / 海辺の彼女たち / ウィンスタム・サンダマリ / オキユバイサンティ / メトロレディーブルース 第64回 憲法映画祭2022 4月23日・24日 グレッタひとりぼっちの挑戦 / ちむぐりさ / 私たちの生きた島 / 若きハルサーたちの唄 / ハークレー市民がつくる町 / 日本鬼子 / 映画日本国憲法 / コスタリカの奇跡 第8回 ちいさな映画会 2022年6月25日 ヒトラー VS チャップリン 終わりのなき闘い チャップリンの独裁者 第65回 2022年8月13日 TOMORROW 明日 自主制作映画見本市 #9 2022年9月18日 2887 / ワタシタチハニゲンゲン / 南直島通達 / 岸辺の代 第66回 2022年10月23日 教育と愛国 第67回 2022年12月25日 日本原 牛と人の大地	第68回 2023年2月12日 テロリストは誰？ 第69回 憲法映画祭2023 4月29日30日 はだしのゲン / 封島丸 / うしろの正面だあれ / 少女ファニーと運命の旅 / ジョニーは戦場へ行った / 沖縄うりずんの雨 / 教育と愛国 / ある戦争 第70回 2023年7月16日 ドキュメント石垣島 / 沖縄、再び戦場へ（仮） スピンオフ作品 第71回 2023年8月6日 広島・長崎における原子爆弾の影響 第72回 2023年10月21日 鶴彬 こころの軌跡 第73回 2023年12月23日 流血の記録 砂川 第74回 2024年2月3日 サイレント・フォールアウト 第75回 憲法映画祭2024 4月29日 ヤジと民主主義 / してはら / 荒野に希望の灯をともし / 戦争のつくりかた / ミザイル基地がやっていた 島で生きる / サイレント・フォールアウト 第76回 2024年6月29日 アトミック・カフェ 第77回 2024年8月11日 生きていてよかった / 千羽鶴 第78回 2024年10月14日 琉球弧を戦場にすな 第79回 2025年1月12日 映画 〇月〇日、区長になる女。 第80回 2025年3月20日 ガザからの報告 第81回 憲法映画祭2025 4月29日 禁じられた遊び / ヘアデの贈りもの オン・ザ・ロード / 夢みる校長先生 第82回 2025年6月28日 琉球弧を戦場にすな 2025 拝啓 住民投票さま 石垣島のまんなかで起きたこと 第83回 2025年8月11日 陸軍 第84回 2025年10月5日 あの日、群馬の霧で 第85回 2025年12月7日 レーン・宮沢事件 第86回 2026年2月8日 日本人はなぜ戦争へ参ったのか “熱狂”はこうして作られた 第87回 憲法映画祭2026 4月18日 二十歳の嵐 / ラストメッセージ / ありふれたファシズム / 戦争のつくりかた / 自虐の首の首 第88回 2026年6月7日 豹変と沈黙 第89回 2026年8月29日 1923 関東大虐殺 第90回 2026年10月18日（予定） 新・戦場の兵士
--	--	---	--

● 毎回の「映画の会の案内」をご希望の方は、下記のMailアドレスまで、その旨、お知らせください。

憲法を考える映画の会

〒185-0024 東京都墨田区中町3-5-6-303
mail: hanasaki33@me.com
HP: <http://kenpou-elga.com/>